

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町多度4113-56		
自己評価作成日	平成21年6月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470600285&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成21年 7月 30日 (木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさととは「家庭的な雰囲気の中で笑顔を絶やさず楽しむ」をモットーに日々接しており段々浸透してきています。「榊原の湯」の大浴場もありのびのびと入浴が出来ます。年間行事もあり特に8月には関連施設や地域の方、普段お世話になっているボランティアの方にも参加して頂き夏祭りを開催しています。また歌や貼り絵、読書などレクリエーションも充実しています。日曜日にはドライブで四季折々の花を観に行ったり、近くの公園にも出掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げるように、「笑顔」を絶やさない取組みがされている。グループホーム全体が清潔感にあふれており、明るい雰囲気である。地域との関わりに努力されており、グループホームの行事や地域の行事にも相互の交流がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふるさとの現場としてのモットーは常に「笑顔」であり接している。	会社の理念よりグループホームの理念が大切であると考え、その重点をみんなで話し合い、笑顔をもっとにして取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶程度でほとんど交流がない。	地域の自治会に加入し、会議や祭り等の自治会行事に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に話している程度である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にふるさとの紹介として現状を話しはしている。	会議の実態を見ると、出席者は自治会長を初め地域の住民数十人であり、事実上は自治会総会の場を借りて、その時間の一部を事業所の説明に充てているようになっている。	運営推進会議の趣旨をふまえ事業所としての主体的会議となるよう、内部検討し、行政や地域包括支援センター、自治会等に事前相談し、運営されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が業務に日々入っており市町村の事などは部長がしている。	グループホーム管理者としての業務が多忙のため、行政との関わりは会社責任者が主な担当者として取り組んでいる。	業務の多忙さ、組織上の役割分担等は理解できるが、事業所として行政と関わるには会社担当のみでなく、管理者として市担当者と積極的に話し合う場を持つことを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解もしており心掛けてはいるが状況に応じては施錠もしている時もあるのが現状である。	各部屋や廊下では鍵をかけないようにしている。しかしグループホームは2階にあり、エレベーターは利用者が自由には使用できず、階段への通路も自動ロックがあり、自由な出入りができない。	安全確保の対策は必要であるが、散歩や買い物等の外出希望者には個別対応したり、昼間だけは自動ロックをはずしたり、利用者の行動を拘束しない工夫を検討されるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等を行いまた日々の生活でも職員間で話はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書などで詳しく説明もしている。入居後も状況に応じて管理者から説明し家族や職員にも理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター内にご意見・ご感想箱を設置し利用してもらい会議でも取り上げて今後に役立てている。	家族の面会は比較的多いので、個別に話し合う機会はある、話し合っている。また家族会もあるが、最近は話し合いの場がないので要望があれば出してほしい、と働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見反映が乏しいのが現状である。	職員会議は月1回予定し、概ね実施している。いろいろな意見が出て、現場として解決できることはその場で対処するが、経営者である会社がその都度応えてくれないため、なかなか具体化されないことも多いようである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員は家族のように日々楽しく向上心を持って励んでいるが整備はされていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が急な退職などにより必要最小限の研修に参加するので精一杯の状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みはされていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話を傾聴し少しでも安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり話し合いをしながら家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を見極めて家族に説明して納得してから対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の共同作業等、利用者個々に合った事をしていただくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時は家族の協力が得られるよう協力体制が確保されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知り合いの方が尋ねてきたり、家族と外出等されている。	事業所の行事に地域の人や昔馴染みの人を招いたり、地域での行事があればそこへ参加する等以前からの地域との関わりを絶やさないよう努力している。なお、墓参りについては家族で対応してもらおうよう話し合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話題を提供し会話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が中心となり家族からの相談や支援に親身になって努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時にはなかなか納得されない場合があり、その際は話題を変えたり時間を置いたりしながら本人本位に努めている。	利用者の気持ちに沿っていくにはどうすればいいか、職員ともよく話し合っている。今までのところ、閉じこもりになってしまうような人はなく、本人本意を考慮しながら全体で交流しあうようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やその後も本人や家族から話を聞き職員も常に把握しており、それに沿った話をする事がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時のバイタル測定から始まり就寝後の巡回まで現状把握に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれ担当を付けており家族への説明も全職員が共有できている。	介護計画は、3ヶ月毎に見直しされている。職員は2人一組で担当し、各職員の意見や提案を介護計画に反映するように策定している。朝の申し送りをあえてなくし、連絡ノートやヒヤリハット事例を必ず読むことにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外に連絡ノートを利用し職員間での情報はしっかり出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、新たな発見が見られ職員も柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に関しては十分考慮しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医訪問診療を利用している利用者もいるが家族が昔から掛かっている医院に行っている等さまざまである。	従来からの主治医への通院は家族で対応してもらっている。利用者の体調は介護ノートで家族に情報提供している。入居後、提携医を主治医にした人もいる。提携医は年1回の定期健康診断をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で利用者に変化が見られた場合関連施設(同じ建物内)の看護師に情報を伝え判断を仰ぎ管理者が最終判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が病院関係者と家族と連携を取りながら利用者が安心して治療を受けられるように関係づくりをしている。介護・看護サマリーを役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時をそうだが、その後も状況に応じて早期に家族に説明している。また地域の関係者には地域運営会議の際に説明している。	入居時には、終末期介護はできないことを家族に伝えている。しかしこれまでに、本人や家族の希望で最後までここにいたい、とのことから終末まで介護をした例はある。したがってケースバイケースであると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員で訓練はしていないがマニュアルがあり個々で初期対応を考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	対策についてのマニュアルはエレベーターの前に貼ってあり連絡網も作成してある。災害への意識は徐々に浸透している。	年1回は消防署参加により、休日の職員も含めた防災・避難訓練をする。別に地域全体の防災訓練があり一緒に参加し、地域の協力も得られる体制ができている。災害備蓄品は併設の特別養護老人ホームが保管している。	今後は防災訓練に加え、救急救命訓練の取り組みも検討されてはどうか。なおベランダからの逃げ場となるドアの内側に荷物があるので、逃げ場をふさがない工夫を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と言う考えから尊敬の念を持って普段から接している。	理念で言うように、常に笑顔で接するよう心がけている。グループホームは「家族同様に」とは言うが家族ではないし、利用者本人も家族のことはよく覚えている。一人一人の気持を理解しながら取り組む努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いは傾聴している。自己決定については尊重したいが職員の意向が重きをおくケースもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援はしているが季節に見合った衣類着用時は説明し納得した上で適切な衣類着用を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在も職員が全て行っている。利用者と職員は食事時間は一緒ではない。	利用者が入居後、少しずつ重度化しており、食事準備や後片付けを一緒にできなくなっている。盛り付けができる人には一緒にしてもらっている。食事介助が必要なため、職員は利用者と一緒に食べる状況にならない。	食事は家庭的雰囲気をもたらす場でもあるので、職員は食事介助をしながらも一緒に食べるにはどうすればいいか、再検討されることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもとの食事提供や定期的な水分補給を行っている。自室には急須をお持ちになっている方もおられ状況もあるが交換している。カルテとは別に食事摂取表もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをしている。毎週日曜日ポリドントにて洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に見合った対応をしている。オムツの方はしている方がいない。	トイレは各個室に設置されており、汚れ具合は適宜チェックしている。失禁しやすい人には紙パンツを使用してもらおうが、できるだけトイレ誘導し、事前の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操をしたり、腹部マッサージなどを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に浴う事は出来ていない。午前はデイサービスであり我々は午後からで男性と女性で日も分けている現状である。ただし温泉のお湯で広い為のびのび入浴ができる。	グループホーム専用の浴室はあり、時には使用するが、併設のデイサービス浴室のほうが広くゆったりしており、しかも榊原温泉の湯なので、それを利用することが多くなる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの症状に合わせてながら気持ちよく睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表を作成してあり1人ひとりの薬の内容はほぼ把握している。必要に応じて管理者が提携医と相談もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやボール遊び等、読書、トランプまた歌(歌詞カード作成)を歌ったりと楽しめる事がたくさんあり気分転換にも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりのその日の希望には沿っていないが天気のいい日は散歩や日曜日にはドライブに出掛けたり年間行事の中で外出する機会を提供している。	月1回は出かける行事を組んでおり、桜、あじさい、紅葉等の花見やイベント参加、買い物、その際の夕食(しかし最近では利用者の体調変化で、外食が少なくなった)等をしている。また日常的に散歩に出るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの力に応じてお金の所持はしている。使用する機会は現在ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話はその後の混乱が多く見られ基本的にはしていない。お正月に年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの季節を表した作品を壁へ飾っている。天候に合わせて窓の開閉やブラインドでの光の調節を行っている。	居間兼食堂が狭く、共用空間としてはゆったり感がない。しかし廊下や壁を手作りの品で飾り、簡潔ながら清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間は狭いが気の合った利用者同士で談笑できる場の確保はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやテレビ台以外は全て好みのものである。絵画が趣味な方の机の上には筆など道具が置かれている。	ベッド、クローゼット、棚は共用品として設置してある。またトイレ、洗面台は部屋ごとに設置されている。それ以外の品々は、自宅から持ち込まれており、その人なりの雰囲気は各部屋に醸成されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	くつろげる空間(畳み部屋等)がなく狭く感じる。その中で出来る事を安全面も考えながら工夫している。		